

🕒
中学校

社会科のしおり

2024年度
前期号



◆ 世界地図歩き

ベトナムを訪ねて

帝国書院・2

◆ 教科書での指導と評価の実践例

「世界の諸地域」の指導と評価の一体化

－「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の観点を中心に－

渡邊 智紀・3

◆ 社会科学習 トラの巻⑩

ワークシートの作り方・使い方

赤坂 寅夫・6

◆ ICTで学びが変わる！

社会科授業におけるデジタル教材

「ぱんSim」の活用と可能性

井上 昌善・9

◆ 公民教室 専門家に聞いてみた

今、知りたい！ 金融教育

－なぜ社会科でお金のことを学ぶの？－

村上 恵子・12

◆ やってみよう！社会科でAL

公民的分野における生徒の切実性を生む

授業展開例－「対立と合意」「効率と公正」×防災学習で

ALを実現－

澤田 康介・14

◆ 授業研究 地理

世界の諸地域 アジア州

－産業発展と人口増加が急速に進む南アジア－

井上 弘毅・16

◆ 授業研究 歴史

「絹の道」から「持続可能な社会の創り手」

を育成する

－地域の歴史から学び、未来を切り拓く－

上床 肇・20

◆ 授業研究 公民

映画『シン・ゴジラ』をきっかけに考える

立法権と行政権の関係に関する授業

渡辺 裕一・24

◆ 史料にみる歴史

農機具の変遷－「千歯こき」を中心に－

関本 明子・28

◆ 社会科ニュース

・30





世界地図歩き

—地図帳とともに世界を歩こう—



ベトナムを訪ねて

2023年8月、ベトナムを訪ねた。
『中学校社会科地図』とともに当時の風景を振り返る。



⑤ カフェで生卵を加えたエッグコーヒーなどを楽しむ若者たち



↑ 『中学校社会科地図』 p.33
↓ 『中学校社会科地図』 p.35



①



②



③



④



■コーヒー大国ベトナムの生産者の暮らし

国土が南北に長いベトナム（『中学校社会科地図』（以下、地図帳）p.33）では、その土地の気候に合わせた農業が行われている。一年中温暖な南部では、稲作が盛んで、メコン川流域は米の一大産地となっている（地図帳p.35①、②）。一方、ラオスやカンボジアと国境を接する西側の中部高原では、昼と夜の寒暖差を生かしたコーヒーの栽培が盛んである（地図帳p.35①、写真ア）。ベトナムは、コーヒー豆の輸出量において世界第2位を誇る（2021年）。ベトナムで生産されるコーヒー豆はロブスタ種が主流で、苦みが強く、日本ではインスタントコーヒーや缶コーヒーの原料となることが多い。

今回取材班は、コーヒー豆の主要生産地の一つである中部高原で、少数民族の家族が営む農園を訪れた。取材当時の8月は、11月から2月にかけての収穫時期に向けて、数人のアルバイトを雇いながら、2.8haもある畑（コーヒーの木にして約2,800本）の水やりや木の手入れの真っ最中であった（写真①）。ベトナムのコーヒーサプライチェーンにも、仲介業者が介在することで、農家の取り分が少ないという構造的な問題が存在している。そのため、子どもを高校まで通わせられない家庭もある

という。少しでも生産性や品質を向上させて収益をあげるために、現地のコンサルタント会社によって、指導や機械の貸与などの支援（写真②）が行われている。

■ベトナムの交通事情とこれから

ベトナムの主な交通手段はバイクで、ハノイやホーチミンなど大都市の道路はバイクであふれている（表紙写真）。ベトナムでは、バイクのことを「ホンダ」と呼ぶほど、低燃費で壊れにくいホンダ車の人気が高い。スクーターに乗る人も多く、渋滞をもとめせず颯爽と駆け抜けていく。そのため、大通りでは絶え間なくクラクションが鳴り響き、排ガスによる息苦しさをを感じる。バイクに乗る人が身につけているマスクやスカーフは、排ガスから身を守るため、新型コロナウイルス感染症の流行前から使われてきた。近年では、脱炭素化を意識した電動バイク（写真③）や電気自動車も増えている。

渋滞解消のため都市部では新たな鉄道の建設が進められている。ハノイでは2021年に1路線が開業したが、乗り換え路線が未完成のため、渋滞の根本的解消には至っていない。日本企業も参加するホーチミンの地下鉄（写真④中央は駅入口の建物。日本とベトナムの国旗が飾られている）は、今年7月に最初の路線が開業予定である。

写真・動画は帝国書院ウェブサイトでもご覧いただけます。
（写真：帝国書院 2023年8月撮影）